

# 平成 26 年度 公益財団法人印旛沼環境基金事業報告

## 第1 公益財団法人印旛沼環境基金の概要

### 1. 設立趣旨

この法人は、印旛沼の水質浄化を推進し、もって印旛流域の環境保全に資することを目的とする。

### 2. 沿革

昭和 59 年 11 月 20 日、佐倉市宮小路町 12 番地に財団法人印旛沼環境基金として、民法第 34 条の規定に基づいて、千葉県知事の設立許可を受けて発足、平成 26 年 4 月 1 日に公益財団法人印旛沼環境基金に移行した。

## 第2 事業の実施状況

### 1. 事業の概要

平成 26 年度の事業は、平成 26 年 3 月 19 日開催の第 2 回理事会で決定した事業計画に基づき実施した。

### 2. 事業の内容

#### (1) 印旛沼および流域における調査研究

##### ① 水質調査等結果の取りまとめ

平成 25 年度に千葉県が実施した公共用水域、および印旛沼流域 13 市町がそれぞれ独自に実施した流域の河川・排水路等の水質調査結果等を広く収集し、取りまとめを行った。

取りまとめ結果は、平成 25 年度に取りまとめた平成 24 年度と同調査結果と合わせて、「平成 25・26 年版いんば沼白書」（平成 26 年 11 月発行）に掲載した。

##### ② 動植物(生態系)等に関する調査研究

###### ア) 印旛沼（流入河川河口域、排水路等を含む）における水草分布調査

この調査は平成 17 年度以降、当環境基金が隔年で行っている独自の調査の一つであるが、平成 25 年の 10 月に大きな台風が来襲したことから、その水草分布に対する影響を把握するための調査を平成 26 年度（7 月 9 日と 7 月 16 日）に行った。

調査結果については、平成 26 年度に引き続き行う平成 27 年度の調査結果と合わせて、平成 28 年度発行の「平成 27・28 年版いんば沼白書」に掲載予定。

##### ③ 各種関連資料の収集と取りまとめ

###### ア) 水質等に関連する情報収集

県および流域市町が平成 25 年度に行った水環境関連の行事、啓発活動などに関する情報を広く収集し、取りまとめた。結果は、平成 25 年度に取りまとめた平成 24 年度の同情報収集結果と合わせ、平成 26 年度発行の「平成 25・26 年版いんば沼白書」に掲載した。

イ) 水質浄化、環境保全関連の資料収集と書籍購入

- ・水資源開発施設等管理年報（第44号・第45号）、独立行政法人水資源機構
- ・土屋 誠：きずなの生態学、東海大学出版部
- ・各市の環境白書(平成26年版)など

(2) 講習・学習会および観察会

① 講習・学習会等の講師派遣

流域内の市町、学校等の関係機関およびNPO法人を含む一般市民団体等からの要請を受け、下表に示す学習会や、講演会等に講師を派遣した。

開催日	場所	テーマ	主催(対象)
H26.5.27(火)	佐倉市立中央公民館	自然と環境	佐倉市教育委員会(佐倉市民カレッジ)
H26.7.22(火)	印旛沼	屋形船による印旛沼自然観察会(1)	なりた環境ネットワーク(成田市民)
H26.8.26(火)	印旛沼	屋形船による印旛沼自然観察会(2)	なりた環境ネットワーク(成田市民)
H26.9.10(水)	成田市生涯大学院	印旛沼の今と昔(前編)	成田市教育委員会(成田市生涯大学院)
H26.9.11(木)	成田市生涯大学院	印旛沼の今と昔(後編)	成田市教育委員会(成田市生涯大学院)

② 屋形船による印旛沼観察会

ア) 屋形船による印旛沼観察会(共催:印旛沼水質保全協議会)

印旛沼流域住民の沼への関心を高めるため、沼の水質の現況と沼周辺の自然環境の観察を目的として、平成26年7月24日に開催。参加者は188名(講師、関係者を含む)。

イ) 印旛沼の探険(共催:印西市青少年相談員連絡協議会)

印西市印旛中地区の親子を対象にして、船中でパックテストを用い水質検査等を行い、沼への関心を高めることを目的に平成26年7月13日に開催。参加者は子供31名、大人31名の計62名。

③ 印旛沼環境基金設立30周年記念公開講座及び座談会(共催:佐倉市)

印旛沼環境基金設立30周年を記念して、一つのテーマを前編・後編に分け2回の公開講座と、テーマをそれぞれ異にする4回の座談会を開催した。

- ・開催場所:ミレニアムセンター佐倉 ホール
- ・対象:印旛沼流域内外の住民

回	開催日	テーマ	講師(所属)	聴講者数
<b>【記念公開講座】</b>				
第1	H26. 6. 28(土)	いんば沼 - むかし、 いま - (前編)	本橋 敬之助 [(公財)印旛沼環境基金]	91 名
第2	H26. 7. 26(土)	いんば沼 - むかし、 いま - (後編)	同上	76 名
<b>【記念座談会】</b>				
第1	H26. 8. 30(土)	いんば沼を撮る	・内田 儀久 (写真家) ・鈴木 康雄 (写真家) ・吉岡 一美 (写真家)	55 名
第2	H26. 9. 27(土)	文人・歌人が描いたかつてのいんば沼	・内田 儀久 (郷土史研究家) ・村上 勲 (郷土史研究家)	38 名
第3	H26. 11. 1(土)	いんば沼の水利用と、 これから	・山口 浩 (千葉県総合企画部水政課) ・高橋 修 (印旛沼土地改良区) ・佐々木 亨 (独立行政法人水資源機構)	21 名
第4	H26. 11. 29(土)	いんば沼の生きものたちのこれから	・浅野 俊雄 [(公財)日本野鳥の会] ・平田 淳一 (千葉県水産総合研究センター内水面水産研究所) ・高山 順子 (千葉県環境生活部自然保護課生物多様性センター)	37 名

(所属:平成27年3月31日現在)

### (3) 啓発・宣伝

#### ① ホームページの公開

インターネットを利用して印旛沼環境基金の活動や計画・予定の行事、さらには印旛沼および流域の環境保全等に係わる最新の情報を広く流域の住民に伝えるとともに、他団体との情報交換や交流を目的にホームページを公開。

#### ② 「水辺の風景画コンクール」(第17回)の募集作品の展示等

印旛沼流域内の小・中学校の児童および生徒に水環境への関心を抱かせるため、印旛沼および流域の河川等、また他地域で見たり、触れたりした水辺を描いた「水辺の風景画」を募集・審査し、選考した作品の展示(佐倉市立美術館)、さらにまた入賞作品(最優秀賞、優秀賞、流域市町長賞)については表彰するとともに、流域市町を巡回・展示した。

なお、美術館での絵画展示期間中(5日間)における来館者は、延べ908名であった。

- ・募集対象：印旛沼流域13市町の小・中学校の児童および生徒
- ・応募学校数：129校（小学校：112校、中学校：17校）
- ・応募作品数：1,962点（小学校：1,599点、中学校：363点）
- ・展示対象作品数：462点（小学校：363点、中学校：99点）
- ・表彰：最優秀賞 1点：齊藤 和希（四街道市立四街道西中学校2年生）  
           優秀賞 2点：山本 光馬（佐倉市立志津小学校6年生）  
                               ：杉山 由衣（八千代市立大和田中学校1年生）  
           市町長賞 12点
- ・表彰式：平成26年11月2日（日）：「佐倉市立美術館・4階ホール」に於いて
- ・展示会場：佐倉市立美術館3階展示室
- ・展示期間：平成26年10月29日（水）～11月2日（日）
- ・巡回展示：流域13市町（展示期間：各市町5日間）  
                               平成26年11月17日（月）～平成27年2月27日（金）

### ③ 刊行物等の展示・配布

印旛沼の現状と重要性を認識してもらうことを目的に、当基金が直接係わる公開講座や助成事業成果報告会など、また県および市町が開催する各種行事において、当基金編集・発行の各種刊行物等を無料配布、また有償頒布した。

### ④ 刊行物等の編集・発行

発行日	刊行物名	形式	発行部数	備考
H26. 5. 31	雑誌「いんば沼」(第35号)	A4判8頁	4,000	委託印刷
H26. 11. 22	いんば沼のはなし(「いんば沼白書」より抜粋)	A5判91頁	4,000	委託印刷
H26. 11. 22	平成25・26年版いんば沼白書	A5判199頁	500	委託印刷
H26. 11. 22	いんば沼とともに -30年のあゆみ-	A4判59頁	500	委託印刷

### (4) 環境保全団体等への助成

印旛沼および流域において自然環境に関する調査・研究や、環境保全に関わる啓発等の各種活動を行っている小・中・高等学校、大学およびNPO法人を含む一般市民団体等を対象に助成金を交付し、その活動成果についての報告会を開催した。

### ① 助成対象の団体

高等学校1校、大学1校、NPO法人を含む一般ボランティア5団体の計7団体

### ② 助成事業成果報告会の開催

上記助成に基づき行った各学校および団体の諸活動の成果を発表するとともに、各団体間の情報交換と相互の連携を図るため報告会を開催した。

#### ア) 開催

- ・ 日時：平成27年1月23日（金）9時10分～14時30分
- ・ 場所：印旛合同庁舎 2階大会議室

#### イ) 講師：

近藤 昭彦（千葉大学環境リモートセンシング研究センター・教授）、佐久間 保男（千葉県教育庁北総教育事務所指導室・主席指導主事）、高山 順子（千葉県環境生活部自然保護課生物多様性センター・主査）、本橋敬之助（公益財団法人印旛沼環境基金・上席研究員）

但し、所属および職名は平成27年1月23日現在

#### ウ) 参加者：46名（講師、関係者を除く）

#### エ) 報告の課題名と団体

題 名	団 体
1 印旛沼に生息する外来生物（アメリカザリガニ等）の生態調査	…聖書学園千葉英和高等学校
2 ナガエツルノゲイトウ・オニビシ・オオフサモの植生調査	…佐倉印旛沼ネットワークーカの会
3 里山保全と里山における自然観察等	…里山の会 ECOMO
4 印旛沼流域の還元的湧水の水環境への役割調査（その1）	…NPO法人 水環境研究所
5 印旛沼流域鹿島川における自然環境調査	…敬愛大学 自然環境研究会
6 ①川の生きもの親子観察会、②神崎川上流のゴミ拾い・草刈り	…神崎川を守るしろい八幡溜の会
7 よみがえれ花輪川 -環境美化と環境調査-	…NPO法人八千代オイコス

### (5)公益財団法人印旛沼環境基金設立30周年記念事業

印旛沼環境基金の設立30周年を記念して、以下の要領で記念事業を実施した。

- ・ 日時：平成26年11月22日（土）：13:30～16:30

- ・会場：ウイシュトンホテル・ユーカーリ 5階ロイヤルウイシュトン
- ・プログラム

#### 【第1部 式典】

式典は、相川堅治富里市長の「開会のことば」に始まり、理事長の藤 和雄佐倉市長による主催者の挨拶、続いて来賓者の代表として千葉県知事代理の中島輝夫千葉県環境生活部長、衆議院を代表して秋本真利議員、および参議院の代表また公益財団法人印旛沼環境基金の前理事の豊田俊郎議員のそれぞれから挨拶を頂いた後、来賓・主催者の紹介と続き、最後に印旛沼環境基金から多年にわたり、印旛沼環境基金の活動への功績がありました堀田和弘氏（助成事業成果報告会での指導と助言、助成団体の研究・活動に尽力）および今井正臣氏（水草調査の協力）の2氏と、写友いには会（印旛沼環境基金の印刷物等に写真提供）の1団体の功勞に対して表彰した。

出席者：127名

#### 【第2部 座談会】

「座談会」に入る前、佐倉市立臼井小学校4年生の6名、佐倉市立佐倉東小学校4年生の2名、印西市立いには野小学校に通う兄妹（けいまい）2人による印旛沼での経験や夢などについての作文の発表があった。

この後、いんば沼の水質が、ここ数年、悪化を示し、全国湖沼の水質測定結果では連続3年ワースト1にランクされている状況に鑑みて、印旛沼に長い水際線を持つ印西市の板倉正直市長、成田市の小泉一成市長、佐倉市の藤和雄市長、酒々井町の小坂泰久町長の4首長に今後、いんば沼をどのような状態で遺し、そのために何をすべきかを座談した。

座談会終了後、北村新司八街市長から「閉会のことば」をいただき、公益財団法人印旛沼環境基金設立30周年記念事業を成功裏に終えた。

なお、座談内容の概要は、平成28年度発行の「平成27・28年版いんば沼白書」に掲載予定。  
出席者：135名